



札幌部会(第3回)

日時:	2012年5月19日(土) 14:30-17:10
場所:	Sapporo55ビル4階 北海道教育大学サテライト教室
参加者:	篠原(同志社大)、新井(東京都立小石川中等)、濱地(北海道教育大)、川瀬(札幌開成高)、松澤(札幌藻岩高)、佐藤(北海道江別高)、吉川(北海道登別明日中等)、奈良(藤学園中・高)、中村(札幌光星中・高)、山下(札幌市立啓明中)、清水(札幌市立平岡中央中)、兼間(札幌市立平岡中)、竹内(浦河町立浦河第一中)、内藤(日本損害保険協会)、山崎(北海道豊富高)、[順不同]

【内容要旨】

1. 新井先生より、他地域の部会、夏の経済教室、大学入試問題検討プロジェクトの内容について説明された。補足として、篠原先生より年次大会、宇都宮、名古屋で行われたワークショップの内容について説明された。
2. 川瀬先生より、札幌部会レポートに基づいて、札幌部会の今後の活動内容について説明があった。なお、札幌部会では、高校入試問題の分析と、北海道の企業などを素材にした「グループ学習」の教材開発を中心に活動することが提案された。
3. 篠原先生より、「経済を通して学ぶ歴史—江戸時代の経済政策」について講演があり、新井白石、徳川吉宗、田沼意次、松平定信、水野忠邦の政策について説明された。経済学者の視点から評価すると、田沼意次の政策は理にかなった経済政策であり、歴史的にも評価されるべき点であることが確認された。
4. 新井先生より、「言語活動の充実をこころがけた公民科の授業実践」の資料に基づいて、言語活動の公民科におけるフィールドとして「読む、書く、話す」の3領域をターゲットにしたご自身の授業内容についての講演があった。併せて、授業で実践されている「NRI学生小論文コンテスト」(主催・野村総合研究所)の紹介も行われた。
5. 吉川先生より、「ESD・国際理解教育とかかわる経済教育の一例」の資料に基づいて、ご自身の勤務校において実践されているESDに関するクロスカリキュラムの内容について紹介された。社会科の分野としては、開発教育教材の「世界がもし100人の村だったら」と、「貿易ゲーム」を通して国際理解を深めさせる方法が提示された。その後、比較優位を実感させるような指導の工夫、途上国をただかわいそうと思わせるに終わらない指導の工夫についての指摘があり、今後の学習指導上の課題とされた。
6. 時間の都合上、松澤先生の「外国為替」についての指導事例については、資料のみの配布となった。  
(文責:山崎 辰也)

次回開催予定: 9月1日(土) 14:30~17:00。場所はSapporo55ビル4階 北海道教育大学サテライト教室。  
議題は、高校入試問題の分析、参加者からの活動報告、その他。